

令和4年度播磨灘・備讃瀬戸環境保全岡山県協議会（第1回）議事概要

（開催要領）

- 1 開催日時：令和4年8月31日（水）13:30～14:45
- 2 場 所：サン・ピーチ OKAYAMA 3階大会場
- 3 出席者：別添資料のとおり

議 題	瀬戸内海の環境保全に関する岡山県計画の点検について 瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画の変更（骨子）について
会議資料	別添資料のとおり
議事概要	<p>【議題1】副会長の選任について</p> <p>副会長に環境省中国四国地方環境事務所が選任された。</p>
議事概要	<p>【議題2】瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画の点検について （資料に基づき事務局から説明）</p>
—意見等— 出席者	<p>CODの環境基準達成率は40%と未だ十分ではないと説明があったが、貧栄養化が進んだ現在でもCODは下げ止まっている。環境基準の見直しの動きはないのか。</p>
事務局	<p>現段階では、具体的な見直しの動きはない。なお、令和2年3月の中央環境審議会答申では、環境基準について個々の項目の評価に加え、複数の項目を組み合わせた水環境の総合的な評価の在り方について、引き続き検討することが必要であるとしており、今後議論が進むものと考えている。県としてもその動きを注視してまいりたい。</p>
出席者	<p>兵庫県では、条例で海域における望ましい栄養塩類濃度（窒素・りんの下限值等）を設定している。岡山県で同じよう取組を行う予定はあるか。</p>
事務局	<p>現段階で予定はない。</p>
出席者	<p>では、是非検討していただきたい。</p>

議事概要	<p>【議題3】瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画の変更（骨子）について（資料に基づき事務局から説明）</p>
<p>—意見等— 出席者</p>	<p>瀬戸内海環境保全特別措置法の改正により、関係府県知事が栄養塩類管理計画を策定できるようになった。兵庫県ではこの10月には管理計画を策定し、下水処理場だけでなく、民間の工場・事業場でも通年管理運転を実施すると聞いている。</p> <p>岡山県では、栄養塩類管理計画の策定について、どうしていくのか。また、変更後の県計画にどのように記載するのか。</p>
事務局	<p>県内では、既に下水道の管理運転等の取組が進められているが、一方でCODやりん的环境基準が達成できていない海域が広く存在しており、環境保全との両立をどう図るのかという課題もある。そのため、まずは既に実施されている下水道の管理運転の状況や、今後、追加で実施可能な施策の内容、環境保全との両立、沿岸府県の取組状況など、様々な情報を整理し、水産部局とも連携しながら研究してまいりたいと考えている。</p> <p>県計画には、以上の県の考え方を盛り込むことに止まると考えている。</p>
出席者	<p>栄養塩類の管理と汚濁負荷の低減は、矛盾する施策ではないのか。</p>
事務局	<p>これまで汚濁負荷の低減のみを進めてきたが、近年、養殖ノリの色落ちなど栄養塩類の減少による問題が生じてきた。今後は、海域ごとの実情や必要性に応じたきめ細やかな水質管理を進めていく必要があると考えている。</p>
出席者	<p>兵庫県では、栄養塩類管理計画を策定し、民間の工場・事業場による管理運転を実施する予定と聞いている。岡山県の状況を教えてほしい。</p>
事務局	<p>下水処理場は、自治体が管理・運営し、地元とも調整しやすい面があるが、民間はこれまで、コストをかけ排水処理施設の整備・管理を行ってきた経緯もある。また、仮に管理運転を行う場合、施設の改造や管理コストなどの負担、地元との環境保全協定への対応など、様々なハードルがあるのが実情と思われる。そのため、まずは現在行われている下水処理場の管理運転の効果等を十分検証する必要があると考えており、関係部局とも連携しながら、研究していくこととしている。</p>

出席者	<p>香川県では、ノリ養殖業者が色落ち対策として管理運転の実施を求める一方で、魚類養殖業者は赤潮の発生を懸念し、管理運転に反対しているといったように漁業種類により意見が異なっていると聞いている。岡山県の状況を教えてほしい。</p>
出席者	<p>岡山県の漁業は、香川県とは状況が異なり、現在、魚類養殖業が全くない。主な漁業種類は漁船漁業、ノリ養殖業、カキ養殖業である。ノリは栄養塩を取り込んで、カキは植物プランクトンを餌にして成長するため、どちらも栄養塩類が重要であるため、県内の漁業者としては栄養塩類を増やしてほしいとの期待が大きいと聞いている。</p>
出席者	<p>海ごみに関して最新の研究成果について情報提供させていただく。瀬戸内海の海洋プラスチックごみの起源を調べた研究では、約半分が農業で使用される肥料カプセル、次に約3割がカキ養殖業で使用される垂下連のパイプであり、ペットボトルやコンビニ袋は1割以下との結果もあった。一方、Tara Oceanの調査では、マイクロプラスチックは岡山県海域が日本沿岸で最も少ない。海ごみの発生抑制はいかに取り組むか難しい問題と考える。</p>